

背景と目的

繊維産業では、これまでSCMに向けた様々な取組が、行政及び民間関連団体を中心に行われてきている。

しかしながら、これらの取組においては、その有用性は確認されてきてはいるものの、実際の企業活動に有効に活用されているとは言いがたい状況である。

このような状況を受け、本事業では、繊維産業SCMの実態を把握し、SCM高度化に向けた支援施策及びその連携について方向性を見出すことを目的とする。

なお、実態把握は、昨年度実施された「繊維産業SCM推進の業界動向把握に向けた調査設計、取組方針の検討事業」において作成されたアンケート票(旧「繊維産業情報化実態調査」と旧「繊維産業取引慣行・取引条件実態調査」を統合)による調査を中心に行う。

本調査におけるSCMの考え方

サプライチェーン(Supply Chain)とは、顧客～小売業～卸～製造業～部品・資材サプライヤー等の供給活動の連鎖全体のことであり、サプライチェーンマネジメント(SCM:Supply Chain Management)とは、「不確定性の高い市場変化にサプライチェーン、いわゆる供給連鎖活動を機敏に対応させ、ダイナミックに最適化を図る」という考え方をさす。繊維産業サプライチェーンは、「小売業～アパレル業～テキスタイル業～糸業」という連鎖として表現される。

サプライチェーンマネジメントは、社内部門、さらには企業の枠を超えて、情報、物流、キャッシュに係わる業務の流れを、サプライチェーン(供給連鎖)全体の視点から見直し、情報の共有化とビジネスプロセスの抜本的な変革を行い、それによって、キャッシュフローの効率を向上させようという経営戦略を実現しようというのが目的である。

このため、ひとつの企業内で取り組む部門も、生産部門や情報システム部門だけではなく、マーケティング部門、営業部門、物流部門、調達部門、商品企画部門、財務部門、管理部門、とほとんどの部門に及ぶ。さらには企業の壁を超えて、「小売業～アパレル・縫製業～テキスタイル業～糸業」全体で取り組むことが重要である。関連するテーマも計画立案、業績管理手法、商品企画開発、需要予測、企業間でのコラボレーション、そしてその支援ツールとしての情報技術の導入等と多彩である。

その取組を行う上で、必要となる企業の業務プロセスの抜本的な見直し、すなわち、業務の進め方自体を変え、業務の効率化を図ること、それもひとつの企業内での閉じた業務革新ではなく、取引企業も巻き込んで企業間取引のあり方を変えること、を行うのである。そのとき、業務改革によって示された新たな業務を実現するのに必要である場合は、道具である情報技術を導入するのである。

サプライチェーンマネジメントとは、経営システム全体の設計思想として、「部分最適ではなく、供給連鎖構造全体の効率(全体最適)を考えた取組を行う」ということを指しているわけである。

SCM高度化に向けた取組を行うためには、

- ・まず経営方針や事業目的に基づいた仕事のやり方(業務モデル)を整理・明確化(又は業務革新)し、
- ・業務モデルを実現するための企業間のルール(取引モデル)を整備し、(障害となる現行取引慣行を見直し、)
- ・業務を支援するアプリケーションを選択
- ・アプリケーションを導入するにあたって必要となる商品コード等の標準仕様等の整備を行う

ことが必要となる。

このため、SCM高度化への取組状況を俯瞰するためには、業務モデル、取引モデル、アプリケーション、標準仕様の4つの要素について実態を把握することが重要となる。

本調査では、これらを下記のように分類し、調査を行っている。



上記の図には4つの要素に該当する代表的なモデル・ソリューションを記載しており、構成要素の全てを示すものではない。

業務モデル: サプライチェーンの全体最適を実現するための業務のやり方(業務プロセス)。これまでの繊維業界SCM検討過程では、業務単位を大きく、計画系の業務、実行系の業務、情報共有の大きく3つに区分している。

取引モデル: 企業間の協働活動によりサプライチェーンの全体最適を実現するための「Win-Win(双方にメリットのある)」取引のあり方。繊維業界では と の統合した概念とし

¹ 「ビジネスアーキテクチャ」とは、業務モデルと取引モデルを総合的に考えるという造語。日本の繊維産業のSCM高度化によるあるべき姿を検討した「QRAI」で提言された言葉である。

QRAI: 「Quick-Response Architecture Initiative」の略。1998年度に通産省の支援のもとに実施された、テキスタイル、アパレル、小売各業界の代表企業から構成される7つのSCMに関するプロジェクトの総称。さらに、7グループの代表者が中心となって、QRAIプロモーションボードを構成し、繊維産業サプライチェーンの全体最適を目標としたQRAIビジネスアーキテクチャを取りまとめている。

で「ビジネスアーキテクチャ」という造語が提言されている。

アプリケーション: 業務モデル・取引モデルを実現する上で必要となる業務を支援する情報システムを指す。企業活動ごとに、計画系業務支援システム(MD 計画システム等)、実行系統合業務システム(在庫管理システム等)、分析システム(商品属性分析等)、社内・企業間情報共有システム(EDI)などに分けられる。

標準仕様: アプリケーションを機能させるための基盤・技術仕様。

アプリケーションの稼働環境、企業内及び企業間の情報共有を効率的に行うためのデータ通信を実現するためのネットワーク構造、相手まで確実に効率よくデータを届けるためのデータ圧縮方法、データ交換に伴う表現規約、各種コード体系など。